

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100076		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名(ユニット名)	グループホーム なごみ・みよせの里		
所在地	和歌山県日高郡日高川町大字三百瀬973番地		
自己評価作成日	2018年10月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kan=true&amp;liegyosyoCd=3092100076-00&amp;PrefCd=308&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kan=true&amp;liegyosyoCd=3092100076-00&amp;PrefCd=308&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成30年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なごみ・みよせの里は、多くの人の協力で建設されました。建物は木造平屋で、民家が建て込んでいない静かで自然豊かな場所にあり、地域との繋がりがりも出来つつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの建物は、紀州木材の温もりが感じられる落ち着いた居住空間であり、自然豊かな地域環境に馴染んでいる。入居者一人ひとりの生活や思いを大切にし地域とつながりながら家庭的で温もりのあるホームを目指している。開設以来2年半ではあるが、入居者が菜園で収穫した豆をむきその豆ごはんや職員と一緒に食卓を囲むといった、日々の楽しみを味わえる家族のような事業所に発展している。また、看護師が常勤であることや、夜勤職員の2人配置などは、入居者・家族にとって安心な暮らしにつながっている。NPO法人による事業所には、小規模多機能ホームやサロンが併設されており、地域との関わりも深い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って実践に心掛けている。	分かりやすくやさしい言葉で表わされた理念は、リビングや玄関に掲示され、職員だけでなく入居者や来訪者も目にする事ができる。管理者・職員は日頃理念について話し合い、理念をサービスの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	サロンや夏祭り、地域のお祭りなどで交流できている。	地域の催しに出かけたり、併設サロンの来客と談笑したり、夏祭りに訪れた子供たちと遊ぶなど、事業所は様々なかたちで入居者と地域の交流を支援している。また、職員は、地域の一員として草刈りや防災訓練にも積極的に参加し、地域との関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンや夏祭りなど、地域の人達が来ていただける機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの状況報告を行い、色々な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	小規模多機能型と合同で2ヶ月毎に会議を開催し、参加者は、家族や地区長、民生委員、老人クラブ会長、元農業委員、役場職員などである。入居状況や行事、事例の報告を踏まえて、相互に情報交換を行い、参加者の意見や助言をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係は築けている。	町の担当者にはグループホームの実情を積極的に伝え、情報の共有に努めている。また、相談があればその都度担当者に問い合わせを行い、適切な指導を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマット等を利用し、身体拘束のない工夫をしている。17:30以降職員が手薄になる為、利用者の状況に応じて施錠することがある。	管理者・職員は職員会議などで身体拘束の内容や弊害について話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。センサーマットを適切に活用したり、日中は玄関を施錠せず、声かけや見守りで安全を確保するなど、抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、よく職員間では話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていない。成年後見制度を活用している利用者が1人居る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や入院時など、その都度利用者や家族に説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日常生活での希望に添えるように努めている。家族には面会時に要望等を聞いている。	入居者・家族には契約時に、外部者にも意見を表せる窓口があることを説明している。家族が来訪した際は話しやすい雰囲気づくりを心がけ、傾聴する姿勢を示している。入居者・家族から出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者よりの報告、スタッフよりの報告を聞く機会が多くある。経営会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け反映できている。	代表者や管理者は、日頃から職員の声に耳を傾け、常に職員と意思疎通を図っている。職員からの提案や要望は会議などで討議の上、運営に反映させている。夜勤に「準夜勤」を導入し、1人から2人体制になったことも、職員達の要望が取り上げられた一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開園より2年半、まだそこまで整備できていない。今後の課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修の受講を予定している。小規模の研修も受講を進めたい。介護福祉士1名合格者あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の状況等について情報を得る事はあがるが、交流までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の対応としては、大切な事で安心して生活できるようコミュニケーションを計り、信頼関係を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での本人の生活や家族の思いを聞き理解し、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	平等にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思い、家族の思いを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。出来る様心掛けている。	馴染みの人の来訪には、職員も歓迎の意を表し、訪れやすい雰囲気づくりを心がけている。入居者は、併設の小規模多機能ホームを利用している友人と行き来して語らうこともある。また、盆正月の帰省や墓参りなどは家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日を楽しく過ごしていただける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや、暮らし方の希望に出来るだけ添えるように努力しているが、なかなか難しい。	入居者との日々の関わりの中で、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、気づいたことは申し送り簿や個別記録に記入して職員間で共有している。会話が困難な場合も、家族から情報を得たり、表情や様子から汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランを理解し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録の記入にて職員で情報を共有し、現状に即した介護計画を作成している。	ケア会議では常勤看護師も交え、管理者・職員達が気づきやアイデアを出し合い、現状に即して介護計画を見直している。入居者・家族の要望を反映させ、必要に応じて医師などの関係者の意見も求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている。	かかりつけ医の選択は入居者、家族の希望に添っているが、ほとんどの入居者は馴染みの医師をかかりつけ医としており、受診の際は職員が付き添うことが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報は共有でき支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	入居者・家族には契約時に、重度化した場合について話し合い、事業所ができることを説明している。実際に重度化した場合は、その都度入居者・家族の意向を確認し、医師や看護師と連携を図り支援している。職員は状況に応じて、常勤看護師より適切なケアの仕方を教わっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指示で日常的に対応できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。地域との協力体制も築いている。	年2回、昼夜を想定し、入居者も参加して訓練を実施している。職員は災害時のマニュアルや連絡網を熟知し、避難誘導や消火器の取り扱いを習得している。備蓄は飲料水や食品の他、停電に備えたランタンなどの物品も備えている。又、地域との実践的な協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けて言葉かけや対応を行っている。	入居者の人格を尊重した支援に努めており、排泄や入浴時は自尊心を損ねない言葉かけや対応をしている。居室へは必ず声掛けしてから入室し、居室は内側から施錠でき、入居者のプライバシーが確保されている。個人情報施錠できる箇所に保管し取り扱いに注意している。	職員はできるだけ勉強の時間を持つようにしているが、必要な知識を習得し、更に能力の向上を図るためにも、年間計画に沿った「研修」という位置づけで定期的な枠を取り、常にコンプライアンスを確認することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援出来ている所もあるが、出来ていない所もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けやテーブルふき、おやつ作りなど簡単な作業は一緒にしていただいている。	昼食と夕食は専属の調理員が厨房で作っている。入居者は職員と同じ食卓を囲み、食後は食器運びなどできる範囲で行っている。時にはおやつ作り、自家菜園の収穫物、朔日の赤飯、行事日の特別メニュー、戸外での弁当、施設内喫茶など、変化を持たせて食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	努力している。	排泄を記録しパターンを把握すると共に、その時々の様子を見守ることで、日中はほとんどの入居者をトイレへ誘導している。夜間も職員2人体制でトイレへ誘導し、排泄の自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来ている。	ほとんどの入居者は週2～3回、午後の入浴が多い。一人ひとりに浴槽の湯を入れ替え、希望に添った入浴方法で、気持ち良くつろいで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を知り、なかなか眠れない利用者にはその都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所としてできる外出は出来ている。家族や地域と協力した外出はできていない。	入居者一人ひとりの希望に添った外出支援に努めている。地域の催しに、希望があれば一人でも参加したり、通院時に買い物に立ち寄りもする。少し離れた菜園で収穫をしたり、花見をしながら弁当を広げることもある。外出困難な入居者には花壇の水やりなどで外気浴と気分転換を図っている。盆正月の帰省などは家族の協力を得ている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて使えるように支援している。お金は事業所が家族から委託を受け管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	入居者が多くの時間を過ごすリビングは、紀州材の温もりを感じる落ち着いた共用空間であり、温・湿度、採光、通風とも快適に保たれている。壁面には入居者と職員が手作りした季節の掲示物を飾り、ボードに今日の日にちと食事メニューを載せるなど、家庭的でくつろげる場所となっている。トイレは広く、使いやすい設計が工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	使い慣れた家具や小物類、家族写真など思い出の品が持ち込まれ、その人らしく居心地よく暮らせる工夫をしている。ドアの明り取り窓の形と、カーテンの色は各居室ごとに変えており、均一化を防ぎその人らしい部屋となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている。		